



# どうして守る市民の足=市営バス

佐賀市の交通事業は、ぼう大な赤字をかかえて身動きできないところまで来ています。将来の「市民の足」を確保していくためにも、一日もはやく財政をたてなおさなければなりません。そこで市では、やむなく12月定例市議会に市営バス運賃の改定案を提出し、3月1日から市営バスの運賃値

佐賀市の交通事業は、ぼう大な赤字をかかえて身動きできないところまで来ています。将来の「市民の足」を確保していくためにも、一日もはやく財政をたてなおさなければなりません。そこで市では、やむなく12月定例市議会に市営バス運賃の改定案を提出し、3月1日から市営バスの運賃値

上げをすることにいたしました。

今号では、市営バスの現状や、運賃改定に踏み切らざるをえなかった事情を、市民のみなさんに理解していただきため、市のバス事業を特集いたしました。

創業当時は、十人乗り程度の小さなバスが、八両ほど、ほんの市の中心部を走っていました。その頃は家の中心で乗客が、バスのクラクションの音を聞いて、「オーケー、そ

のバスちょっと待つてくれ」と声をかけられ、しばらく停車して、そのお客さんをお待ちするという、おおらかでサービス満点ぶりを發揮したこと、今は昔の語り草となつております。

お出かけの準備をされている乗客が、バスのクラクションの音を聞いて、「オーケー、そ

のバス事業は、昭和十一年、第一号車が発車して以来「市民のみなさんの足」としての役割をはたすべく約四十年ちかくも、けんめいに走りつづけてきました。

創業当時は、十人乗り程度の小さなバスが、八両ほど、ほんの市の中心部を走っていました。その頃は家の中心で乗客が、バスのクラクションの音を聞いて、「オーケー、そ

のバスちょっと待つてくれ」と声をかけられ、しばらく停車して、そのお客さんをお待ちするという、おおらかでサービス満点ぶりを發揮したこと、今は昔の語り草となつております。

お出かけの準備をされている乗客が、バスのクラクションの音を聞いて、「オーケー、そ

## ふえ続ける赤字

### 黒字路線は六本だけ

#### 採算にあわない片道輸送

中小都市のバス事業で、一

番の悩みは、典型的な片道輸

送です。市営バスでは、一日

九十六台のバスで、延べ五千人をこび、往復五百回

の運行回数、一日走行キロ九

千三百キロメートル、一人当

たりの乗車キロが四・二キロメ

ートル位なので平均乗車密度

は十六人位となります。少な

くとも二十人以上の乗車密度

になります。ただし、二十人位

までの乗車密度には

乗車密度が高まっています。

朝、夕のラッシュ時には、

約百台のバスがフル運転し、

日中は、五十台位しか走って

いません。しかも、ラッシュ

時にも終点に向ってはガラ

ガラ、逆に中心部に向っては

ます。

いかえると、昼間の「市

民の足」を確保するためには

全部乗せることができず

ます。

大変な迷惑をおかけしてい

ます。

といふことで、乗車密度にそ

れを全部乗せる

ことがで

きます。

そのため、乗車密度を保つ

うと

それが、乗車密度を保つ



